

27年度

学校経営の重点【学校教育目標】

- (ア) 聴覚に障害のある幼児の全人的発達を促すための教育的支援を行う。
- (イ) 幼児の発達と聴覚障害の特性に配慮しながら個性と能力の伸長を目指すとともに、一人一人のニーズに応じた教育を行う。
- (ウ) 愛情に満ちた親子関係の中で望ましい育児が行えるよう、保護者の支援を行う。
- (エ) 聴覚学習を通して個に応じた聴覚の活用を促すとともに、視覚情報を効果的に取り入れてコミュニケーション活動を活発にし、基礎的な言語の獲得を進める。
- (オ) 豊かな生活体験を通して基本的生活習慣の確立をはかり、障害に基づく困難の改善と克服および自立と社会参加を目指す人間性の素地を培う。
- (カ) 地域におけるセンターの機能と聴覚障害児教育への理解・啓発を図るとともに、開かれた学校づくりを推進する。

自己評価基準A 達成している ■ B おおむね達成している ■ C 未達成に近い ■ D 達成していない ■

学部・分掌	(学校経営の重点) 各部の今年度重点目標と結果・課題		自己評価	学校関係者評価□
	具体的取り組み	結果と課題		
保育 相談部	(ア) 聴覚に障害のある幼児の全人的発達を促すための教育的支援を行う。			
	幼児の聴力や生活の中での音反応を把握し、さまざまな音楽材をつかった音遊びや呼びかけ遊びの中で聴覚活用を促す指導に取り組む。	日常生活での音反応を観察したり、聴力測定を行ったりと、幼児の聴力を把握した。楽器を使った遊びでは、聴力によって楽しめる楽器が限られ、遊びのバリエーションを増やすにたがなかった。呼びかけ遊びは遊びを設定するほか、教材を出すときなどさまざまな場面で取り組み、声を出すことが習慣になった子どももいた。	B	・保育相談部で、子育てや親子のコミュニケーションについて教えてあげているのは、とても良いと思う。今時の母親は「分らない」「聞けない」「不安」等あり、学校でのお母さんへの支援、これからは大事にしてほしい。 ・難聴の子どもで、「はし」と言えない子が多い。質問しても「発言できない」といふ。聞えなくても、聞き取りができていない子が多い。聞き取りができていない子が多い。聞き取りができていない子が多い。聞き取りができていない子が多い。
	(ウ) 愛情に満ちた親子関係の中で望ましい育児が行えるよう、保護者の支援を行う。	毎日の母子日誌は、どのようなポイントで書くのかを伝えただけで書いてもらった。その記録をもとに、個別指導を行った。行事やクッキングなどへの取り組み記録からも親子の様子を把握し、保護者の取り組みをほめたり、アドバイスをすることができた。	A	・難聴の子どもで、「はし」と言えない子が多い。質問しても「発言できない」といふ。聞えなくても、聞き取りができていない子が多い。聞き取りができていない子が多い。聞き取りができていない子が多い。聞き取りができていない子が多い。
幼稚園部	(ア) 聴覚に障害のある幼児の全人的発達を促すための教育的支援を行う。			
	・幼児が身近な小動物や植物、おもちゃや図書等に自由にふれられるよう環境を充実させると共に、学級での自由遊びの時間を確保することで主体的に遊ぶ姿勢を育てる。	カタツムリ、オタマジャクシ、カブトムシの幼虫などの小動物を飼育し、学年をこえて見せ合うなど交流にも使うことができた。定期的に花や野菜の苗を植えることもできた。4歳5歳合同の自由遊びや3歳朝の朝の自由遊びの時間は確保できた。また、その中で子ども達同士で積極的に遊ぶ姿も見られるようになった。	A	・自信もてない人が多い。受け身の態度だけではなく、情報の伝わりが分からない人が多く、二までは分っている自分から伝えられたいといふ。自分は〇〇と理解したがそれだけでいいのか?など、自分から確認する方が多い。それには、健常者からの尋ねを諦めた方がいいと思う。(きこえた?「きこえた」などのやりとり) ・主体的な関わりを大切にしていくと、感情も育っていく。主体的にかかわっているか?自然に身につくと思う。動物を愛おしく感じる。植物を育てる。等は想像力にもつながるので、とても大切。 ・表に見えない大変さには敬意を表す。
	・月2〜3回なにかし遊びの時間を設け、異年齢保育の充実を図ると共に、主体的に物や人と関わる力を育てる。	4、5歳児合同での自由遊びは、教師に頼らず子ども達同士で主体的に遊ぶ姿が見られるようになるなど成果があった。しかし、3歳児を加えたなにかし遊びの時間が確保できなかった。	B	・子ども達にあなたたちは出来る力を持っているのだと自信をつけさせてあげてほしい。
総務部	(エ) 聴覚学習を通して個に応じた聴覚の活用を促すとともに、視覚情報を効果的に取り入れてコミュニケーション活動を活発にし、基礎的な言語の獲得を進める。			
	・少人数でのグループ保育の時間を通して、コミュニケーション能力の向上を図る。また、保護者へ保育の意図や子どもの課題を伝える時間を確保する。	意識的にグループ保育の時間を確保するように保育計画を立てたが、学期、学年によっては数が確保できないことがあった。また、保育内容等について保護者と話をする時間がもう少し必要であった。	B	・子ども達にあなたたちは出来る力を持っているのだと自信をつけさせてあげてほしい。
	(イ) 幼児の発達と聴覚障害の特性に配慮しながら個性と能力の伸長を目指すとともに、一人一人のニーズに応じた教育を行う。	儀式、広報(アート展)、行事(全校行事・遠足)は、定期的に集中することがないので余裕を持って提案することができた。ただし、行事係(年間・毎月)は各分掌と連携、調整しながら提案等を行った。行事研修等の精選は今後の課題である。	B	・同窓会、子どもの会を年3回しているが、大人の同窓会も何かできれがよいと思う。
教務部	(カ) 地域におけるセンターの機能と聴覚障害児教育への理解・啓発を図るとともに、開かれた学校づくりを推進する。			
	これまで各分掌にまたがっていた儀式、広報、行事を総務係として整理し円滑な運営を目指す。	儀式、広報(アート展)、行事(全校行事・遠足)は、定期的に集中することがないので余裕を持って提案することができた。ただし、行事係(年間・毎月)は各分掌と連携、調整しながら提案等を行った。行事研修等の精選は今後の課題である。	A	・同窓会、子どもの会を年3回しているが、大人の同窓会も何かできれがよいと思う。
	(イ) 幼児の発達と聴覚障害の特性に配慮しながら個性と能力の伸長を目指すとともに、一人一人のニーズに応じた教育を行う。	このまま各分掌にまたがっていた儀式、広報、行事を総務係として整理し円滑な運営を目指す。	B	・同窓会、子どもの会を年3回しているが、大人の同窓会も何かできれがよいと思う。
相談センター部	(イ) 幼児の発達と聴覚障害の特性に配慮しながら個性と能力の伸長を目指すとともに、一人一人のニーズに応じた教育を行う。			
	インクルーシブ教育システム構築に向けた国の動向を踏まえ、インクルーシブ教育システムに関する理解を深めるために、教員を対象とした研修を実施する。	県のインクルーシブ教育システム構築研修に基づき、校内で研修を行った。また、校内での合理的配慮について、個別的教育支援計画に記載することとした。今後、県内の他の聴覚特別支援学校と情報交換するなど、校内の教育の充実を図っていく。	B	・学校評議員より地域で難聴学級が増えてきていることについて学校はどう思うかと質問があり、「共に学ぼう」という観点から、地域に難聴学級ができること、近くにそういう学校があることは良いと思う。難聴学級の担任が初めてという先生に対しては特別支援学校がセンターの役割として支援してあげなければならぬと考えている。」と回答。
	(カ) 地域におけるセンターの機能と聴覚障害児教育への理解・啓発を図るとともに、開かれた学校づくりを推進する。	文科省の特別支援学校のセンターの機能充実事業を活用し、教育相談利用児が在籍する保・幼・小・中学校において研修や事例検討、市教委と連携した教員研修を行った。新設難聴学級担任からのニーズが高く、保護者と連携しながら支援の充実を継続的に図っている。また、養護教諭対象の研修会は、難聴児の気づき・理解・啓発に繋がった。	A	・先生が落ち着いて子ども達の様子をみている。子どもには大人の様子が伝わる。子どもたちがどんどん成長してよい意味でも手強くなっている分、先生が上手く対応している。でも、見守るだけで駄目、子ども達の発想を上手にとらえて保育にいかしてほしい。 ・友達との共有、笑いの共有、支援のいるいないをオープンに育てると、合理的配慮では教えることが難しいあたりまでのやりとりにやってほしい。 ・保育所の保育では合同の保育を月一回どうにしている。クラスごとの利点、縦割りの利点がある。
研究部	(イ) 幼児の発達と聴覚障害の特性に配慮しながら個性と能力の伸長を目指すとともに、一人一人のニーズに応じた教育を行う。			
	月に2〜3回の研究活動を設け、保育場面のビデオ分析等を通して、より良い支援のあり方について検討する。今年度の成果は、昨年度、一昨年度の研究と合わせて記要にまとめる。	研究活動を通して保育や子どもの状態の分析や教師の支援のあり方について話し合う機会となった。今後も教員同士の共通理解を図り、子どもの発達を促すためにより良い支援ができるように継続して取り組んでいきたい。各部の成果や研究内容を記要にまとめて報告する。	B	・先生が落ち着いて子ども達の様子をみている。子どもには大人の様子が伝わる。子どもたちがどんどん成長してよい意味でも手強くなっている分、先生が上手く対応している。でも、見守るだけで駄目、子ども達の発想を上手にとらえて保育にいかしてほしい。 ・友達との共有、笑いの共有、支援のいるいないをオープンに育てると、合理的配慮では教えることが難しいあたりまでのやりとりにやってほしい。 ・保育所の保育では合同の保育を月一回どうにしている。クラスごとの利点、縦割りの利点がある。
	全教員が研究授業を行い、指導力を更に向上させる。子どもが生き生きと活動できている保育内容であるか、子どもの表出を適切に捉えているか、教師の働きかけが個々の子どもの発達に合っているか、検討を重ねる。	全教員が研究授業を行い、各部の実態に即したテーマ、形態で実施できた。授業研究会では経験者による助言や、今後の子どもの指導や保育活動に生かせるように活発な意見や感想、適切なアドバイスが交わされた。また、教員一人一人の指導力の向上に繋がっていくように継続していききたい。	A	・先生が落ち着いて子ども達の様子をみている。子どもには大人の様子が伝わる。子どもたちがどんどん成長してよい意味でも手強くなっている分、先生が上手く対応している。でも、見守るだけで駄目、子ども達の発想を上手にとらえて保育にいかしてほしい。 ・友達との共有、笑いの共有、支援のいるいないをオープンに育てると、合理的配慮では教えることが難しいあたりまでのやりとりにやってほしい。 ・保育所の保育では合同の保育を月一回どうにしている。クラスごとの利点、縦割りの利点がある。
(ウ) 愛情に満ちた親子関係の中で望ましい育児が行えるよう、保護者の支援を行う。				
保護者のニーズに応じた保護者研修を月1回程度実施する。「成人聴覚障害者の話」などの研修を通して、保護者が子どもの障害を受け止め、愛情をもってわが子に向き合い、子どもの発達や特性に合わせた関わりができるように支援する。	予定通り月1回程度保護者研修を実施した。特に「成人聴覚障害者の話」では、我が子の障害を認識し実態に合わせた関わりや将来の見通しをもって子育てできるように支援した。保護者の感想では、前向きに子育てしていきたいといった内容の感想が寄せられた。今後も保護者のニーズに合わせた内容の研修を計画したい。	A	・先生が落ち着いて子ども達の様子をみている。子どもには大人の様子が伝わる。子どもたちがどんどん成長してよい意味でも手強くなっている分、先生が上手く対応している。でも、見守るだけで駄目、子ども達の発想を上手にとらえて保育にいかしてほしい。 ・友達との共有、笑いの共有、支援のいるいないをオープンに育てると、合理的配慮では教えることが難しいあたりまでのやりとりにやってほしい。 ・保育所の保育では合同の保育を月一回どうにしている。クラスごとの利点、縦割りの利点がある。	

生活・保健部	(ア) 聴覚に障害のある幼児の全人的発達を促すための教育的支援を行う。				
	玄関や階段横の壁面構成を工夫し、子どもが季節感を感じ主体的に関われるようにする。	玄関や階段横の壁面構成を季節に応じたものに毎月変えた。子ども達は壁面を通して話をしたり、触って遊んだりすることができた。操作できる壁面の場合遊びに夢中になり次の活動にスムーズに取りかかれず子どもがいたので次年度は配置等に関して工夫していきたい。	A		<ul style="list-style-type: none"> ・「防災訓練のつなみ」大きなテーマに取り組んでいるので驚いた。交通安全や不審者対応などの訓練や研修も大事なことで、素晴らしい。 ・主体的な関わりを大切にしていくと、感情も育っていく。主体的にかかわっていると感じる。動物を育てる。等は想像力にもつながるので、とても大切。
	子どもたちの食への関心や食に関する知識を高めるため、季節や行事、子どもたちの嗜好に配慮した給食を実施する。	今年度も季節や行事に配慮した給食を積極的に実施した。特に「月のテーマ食」を設け、それに関連した献立作成や階段下の掲示を行ったことで、幼児の給食への関心を高めることができた。今後は、教育的配慮のある給食を実施しながら、保護者への働きかけも同時に行きたい。	A		
	食に関わる体験的な活動を実施する。	調理体験(クッキング)だけでなく、季節ごとに野菜を栽培し食するまでの一連の活動を行ったクラスもあり、様々な体験的な活動を実施することができた。また、外部の講師を招いて実施した「竹輪作り講習会」では、親子の活動を取り入れることができ、作る楽しさや食べる楽しさを知るよい機会となった。来年度も新しい活動を計画していきたい。	A		
	(オ)豊かな生活経験を通して基本的な生活習慣の確立を図り、障害に基づく困難の改善と克服および自立と社会参加を目指す人間性の素地を培う。				
	舞子高校との交流教育(地震と津波のお話)を通して、地震と津波の怖さを知り、高い建物に逃げるといことを知る。また様々な状況下での災害発生時の避難訓練を通して災害発生時に、落ち着いて行動ができるようにする。	舞子高校との交流教育(地震と津波のお話)や地震・津波避難訓練を通して地震・津波の怖さ、津波が来たときには高い建物に逃げるといことを、知ることができた。その他、火災避難訓練を行うことで様々な状況下での災害発生時に、落ち着いて行動できるように訓練することができた。今後も避難訓練を通して災害発生時に落ち着いて行動がとれるよう取り組みたい。	B		
害虫や植物の発生などの環境衛生については関係機関と連携することで、正確な情報や助言を得て対処し、幼児が安全に学校生活を送ることができるようにする。	クモやきのこの発生については、専門機関(県・西宮市)に相談し安全性や対応について助言をいただき対応した。本校は幼児のため害虫や動物等で、けがや感染症にかかるリスクが高いため今後も安易に考えず、正しい情報をもとに対応したい。	B			
情報部	(ア) 聴覚に障害のある幼児の全人的発達を促すための教育的支援を行う。				
	図書室を利用しやすい環境を整えるため、毎日返却図書の整理を行う。年間を通して季節に合わせた新刊絵本を購入し、掲示板や読みかきせの会等で紹介することで図書室の利用を促す。	月に2回絵本のよみかきせを実施し、読みかきせ後に季節に応じた新刊絵本を紹介した。加えて、新刊絵本に関連する掲示物や仕掛けのある玩具を掲示板に取り入れたり、図書室に絵本立てを設置して子どもたちが絵本を選びやすいように工夫したりした。今後も引き続き図書室の環境整備に努めていきたい。	A		<ul style="list-style-type: none"> ・ロジャーを個別の教室で利用しているが、広いところで活用した方がロジャーの力が発揮できると思う。人数の多いところで使えるとよい。今後、検討してほしい。
	(イ) 幼児の発達と聴覚障害の特性に配慮しながら個性と能力の伸長を目指すとともに、一人一人のニーズに応じた教育を行う。				
幼児一人一人の聞こえに配慮し、スピーカーで音を増幅する等、音環境を整える。また、必要な場合は医療機関と連携し、ロジャー補聴援助システムを活用する。	ロジャー補聴援助システムの使用を医療機関から推奨され、購入した幼児については、学校でも使っていくことにした。1.2学期は個別で、3学期からは集団保育でも使用した。情報をうまく活用できるよう、保護者研修も併せて行なった。実際に使って分った課題を整理し、今後につなげていきたい。	B			